



# 「分かる・できる・楽しい」授業をめざして

～小学部・音楽の実践から～

小千谷市立総合支援学校 小学部 板垣 恵美子

## <児童の実態>

- ・音楽を聴いたり、音楽に合わせて体を動かしたりすることが好き。
- ・簡単な歌唱や、リズム演奏ができる児童が7割程度である。

- ・みんなと一緒に声を合わせて歌うことができる児童は少ない。
- ・タイミングよく動きを模倣したり、楽器を演奏したりすることが難しい児童がいる。

## <目指す姿>



- ・自分から歌ったり、楽器を鳴らしたり、音楽に合わせて身体表現したりする。
- ・歌唱、身体表現、器楽演奏、鑑賞等の音楽的活動を楽しむ。

音楽って楽しい!

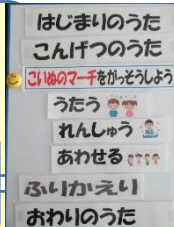


自信をもって、ほかのことにもチャレンジしよう!

## <手立て>

### 【視覚化】

一時間の活動内容を、簡潔にカードで示す。



分かる

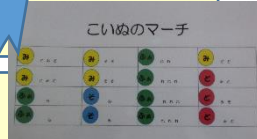
### 【焦点化】

実態に応じた楽曲、活動の選択。個々に応じた楽器、課題の準備。



### 【共有化】

毎時間の終末に、「ふりかえりタイム」を設定する。



### 【視覚化】

楽器置き場や使う楽器を写真で明示する。



### 【視覚化】

階名を色分けして分かりやすく楽譜に示す。楽器にもシールを貼る。

### 【視覚化】

マイクを目の前に提示し声を出すタイミングを分かりやすくする。



### 【共有化】

児童が手本を示す機会を設ける。拍手で称賛し、自信につなげる。



楽しい

### 【共有化】

毎時間「リクエストタイム」を設定し、担当児童が自分の好きな曲を選択し、全員で楽しむ。

### 【焦点化】

授業の流れを年間を通しほぼ一定にする。月ごとのテーマに沿って、多少の変化を加えながら同じ活動を繰り返す



## <成果と課題>

- UD化の3つの視点「視覚化・焦点化・共有化」から手立てを工夫したことで、児童が主体的に音楽的活動に取り組む場面が増えた。
- 音楽の授業の楽器演奏や振り返りの発表等で自信をつけ、学校生活のほかの活動でも自分から挑戦しようとする姿が見られるようになった。
- ▲実態差の大きい集団で、どこに基準を置くかが難しい。どの子も「分かる・できる・楽しい」授業になるように、今後も、教材を開発し、UD化を意識した支援をしていく。